

予別ニ支障ノ慮ナキニ付此ノ儘可決セラレ然ルヘキモノ

ト思料ス

右謹ニ審査結果ヲ報告ス

大正七年七月四日

書記官長

議長 宛

大正七年七月三日

書記官長

主筆書記官

書記官

臺灣總督府官制中改正ノ件外一件

審査報告

謹ニ今回御諮詢ノ臺灣總督府官制中改正ノ件

十二

外一件ヲ審査スニ

第一 臺灣總督府官制中改正ノ件

本案、要旨左ノ如シ

(一) 警務官、新設

~~兼任、警務官、法律、警察、警視、警務、警視~~

警察本署

外新ニ警務官専任三人ヲ置キ

上官ノ命ヲ承テ

事務、警務官

第十九條、第二十六條第一項

(二) 監察官、新設

新ニ警察本署ニ監察官二人ヲ置キ警視ヲ以テ

之ニ充テ上官ノ命ヲ承テ警察事務ノ實況ヲ視

監

察セシム(第二十九條、二)之ニ伴ヒテ警視、定員十

入ヲ減シテ專任二人ト為ス(第十九條)

(三) 委任警察官ノ職權ニ關テ規定ヲ追加

警務官、警視又ハ蕃務警視ハ事務ノ執行ニ關

シ警視總長ノ命ヲ兼テ警察官ヲ指揮監督スル

コトノ規定ヲ追加ス(第二十六條第三項)是レ專ラ

處務ノ便宜ニ^{應ズ}中_ルノ趣旨ナリ

四 職員定員ノ増加

前記警務官ノ新設本警視ノ減員外(イ)技師ニ

於テ曩ニ對岸廈門ニ實施シタルト同一ノ趣旨ニ因

リ福州及廣東ニ派遣シテ防疫事務ニ從事スル

机
密
附

傍臺灣總督府援助ノ下ニ經營セラルル病院、高級
職務ト為リテ其ノ事務ニ從事セシムル為テ水産及商
工業ニ関スル事務ニ從事セシムル為テ專任十四人ヲ
増加シ(四)諸般事務ノ必要ニ應ジ屬ニ於テ十五人、
視學ニ於テ一人、技手ニ於テ十四人、燈臺看守ニ

於テ一人ヲ増加ス(第十九條)

第二 臺灣總督府地方官官制中改正ノ件

本案ノ要旨左ノ如シ

(一) 職員定員ノ整理及増加

(1) 俸給豫算定額内ニ於テ事務官、警視及技

監
察
院

師ヲ置クコトヲ得ルノ規定ヲ改メテ官制上常ニ此等

職員ヲ置クモノト為シ(第二條)(四)判任官各廳ノ

定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ臺

灣總督ノ認可ヲ經テ廳長之ヲ定ムルノ規定ヲ改メテ

廳長以外ノ職員ノ定員ハ各官各廳ニ付臺灣總

督之ヲ定ムルコト為シ(第三條)(四)殖^産民業ノ發達

ヲ図ル為技師一人、其他諸般事務ノ主要ニ應ジ

屬二十人及技手十四人ヲ增加ス(第二條)

(二)視學ノ新設

新、判任ノ視學專任六人ヲ置キ上官ノ指揮ヲ

承々學事ニ関スル視察及事務ニ從事セシム（第二

條 第十四條ノ二）

（三）稅務吏ニ関スル規定、整理及其定員、増加

稅務吏ニ関スル單行勅令タル明治四十二年勅令第

二百九十一號ヲ廢止シ本^官制中^之事^ニ條項ヲ追

加ス其趣旨、於テ前後相異ナル所ナキモ今回事務

（七）要ニ應シ
増加^ト伴^ヒ定員ニ於テ八人ヲ増加ス（第二條、第

十六條ノ二、附則第二項）而シテ本令施行ノ際現ニ舊

勅令ニ依ル稅務吏、職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付

セラレサルトキハ當然同俸給ヲ以テ本官制ニ依ル稅務

吏ニ任セラレタルモノトス（附則第三項）

四 字句ノ整理

（判任官ノ職掌ヲ規定スル條項）

第十三條乃至第十六條ニ於テ課又ハ支廳ニ分屬シ

ヲ削除スルカ如キハ單ニ字句ノ整理ニ外ナラズ

諸點ヲ通シテ

以上ノ事件ニ別ニ支障ノ虞ナキニ付此ノ儘可決

（二案件ニ原案）

セラレ然ルヘキモノト思料ス

右謹ニ審査ノ結果ヲ報告ス

大正七年七月四日

書記官長

議長 宛